

授業で使える作文素材 II-1

「ありがとう」(45分)

対象/小学生

1. プログラムの趣旨

きくたさんがたった一人で地震の大きな揺れから体を守っている時の恐ろしさや、家族や親戚の手助けでいのちが守られたこと、大切な家族を失った悲しみから、いのちの尊さを考えさせたい。

2. ねらい

まわりの人々に支えられて生きている自分の生命の尊さを知り、力強く生き抜こうとする心を育む。

3. 展開

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (7分)	①いのちとはどのようなものかを考える。 ②資料を読んで感想を発表し、話し合いの方向をつかむ。 ★いのちを大切にすることとはどういうことか考えよう	・いのちについて自分も持っているイメージを交流し、自らもいのちも持っていることを認識させ、本時の学習価値について認識できるようにする。 ・感想をもとに本時のねらいの方向付けを図る。
展開 (30分)	③「わたし」の行動や気持ちについて考える。 ・一人で帰っている時に地震にあって、どんな気持ちになったでしょう。 ・おじいさんやおばあさんを残して避難している時、どんなことを考えたでしょう。 ・家族に会えた時どんな気持ちがかみ上げてきたでしょう。 ④自分のいのちを大切にすることはどういうことか話し合う。	・帰り道に様々な危険があり、身の危険を感じた「わたし」に共感できるようにする。 ・足の悪い祖母を気にかけてつも祖父母を残し、隣人と避難する「わたし」の緊迫した状況を把握させる。 ・家族に会えた喜びと祖父母を失った悲しみを抱えた「わたし」がこれからどう生きていこうと考えているのかを考えさせる。 ・いのちの尊さの自覚を深めるため、学習前の自分と今の自分の考えを比べて考えたことを全体で交流する。
まとめ (8分)	⑤教師の話聞く。	・自分にも深い愛情をもって大切にしてくれた人々がいることに気づかせ、困難にも負けずいのちを大切に、力強く生きようとする気持ちをもたせるようにする。

作文：「ありがとう」 気仙沼市立鹿折小学校二年 きくた るみな

出典：「宮城県連合小学校教育研究会国語研究部会」編 作文宮城60号〈特別編〉『あの日の子どもたち』2011.3.11 東日本大震災の記録集から

わたしのすんでいた家は、もとはま町にありました。とてもいい町でした。三月十一日金曜日。わたしは、一人で学校がえりの道を歩いていました。その日は、学校にのこってべん強してから帰ったので、一人で帰っていました。とつぜん、地しんがきました。前の日の地しんよりも、ずっと大きくて、ぐらぐらゆれ、わたしはこわくなってしゃがみました。

バキッバキッ、ガシャガシャン。

すごい音がしたので、まわりを見ると、電しんばしらがぐらぐらゆれて、たおれそうになっていました。どこかの家のガラスもわれて、とびちっています。電しんばしらの下の道ろが、ひびわれて、茶色い水がばあっと上の方にわき出ているのを見ました。

(どうしよう。この地しん、すごく大きい。)

しゃがみながらゆれるのがいつおわるのかまっていました。でも、なかなか、止まりません。こわかったけど、早くおうちへ帰りたくなくて、少しゆれるのが小さくなったときに走っていました。とちゅうでなん回もゆれたので、しゃがんだり、走ったりをくりかえしながら、帰りました。家につくと、じいじとばあばがいました。またゆれがとまらなかったの、こわくて、ランドセルをおいてこたつにもぐりました。ばあばは、びょう気で足がわるくて、車いすにのっていました。じいじは、車のうんてんができません。となりすむ、わたべさんたちが、たすけに来てくれたとき、ばあばは、トイレに入っていました。

「るみなだけ、先ににげろ。ランドセルばもってげよ。」

じいじは、わたしだけを先ににがしてくれました。わたべさんたちの松岩のしんせきの家にひなんしました。パパやママ、じいじやばあばともれんらくが、とれず、かなしい日がつづきました。わたべさんたちは、みんなとってもやさしくて、わたしにごはんを食べてさせてくれ、いっしょにあそんでくれました。でも、夜になると家ぞくに会いたくなりました。

(みんなは、どうしているかな。パパとママ、たいがやこはく、じいじとばあばは、だいじょうぶかな。いつになったら会えるんだろう。)

三日目の夜は、がまんができなくなって、ないてしまいました。

しばらくして、ママたちがわたしをむかえにきました。ママとパパにあえたとき、本当にうれしかったです。ママは、ないていました。そのあと、ママのしんせきの家にいっしょに帰りました。そこで、弟のたいがと妹のこはくにもあえました。

でも、じいじとばあばは、そこにはいませんでした。まだ、二人が見つからないことを知りました。

パパとママは、毎日、毎日、ひなんじょや、したいあんちじょへ通って二人をさがしました。

一か月がすぎ、何日かしたあとで、じいじとばあばが見つかりました。

ばあばは、家の近くで見つかり、じいじも少しはなれたところで見つかりました。

ばあばは、びょう気で足がわるくてあまり歩けなかったけど、いつもにこにこして、みんなをわらわせてくれる人でした。

じいじは、りょうりが上手で、よくホットケーキやあさりバターを作ってくれました。つりにもつれて行ってくれました。じいじは、魚をつっても、帰りにはにがしてあげる心のやさしい人でした。

本当は、しんじゃったなんて思いたくないです。また、会いたいです。また、みんなでココスへ行ったり、あつて話がしたいです。

天国のじいじとばあばへ

お元気ですか。るみなはとっても元気だよ。今は、かせつじゅうたくにすんでいるんだよ。家ぞくもみんな元気だよ。じいじが、さい後に、

「ランドセル、もってげよ。」

と言ってくれたから、ランドセルはつなみにながされなかったよ。このランドセルは、ずっと大切につかうからね。

学校のべん強もがんばってるよ。家では、パパやママがいないときに、ごはんを作りたいがやこはくに食べさせているよ。けんかをすることもあるけど、なかよくあそんでいるよ。さみしくなるときもあったけど、もうだいじょうぶだよ。二人のことはずっとわすれないからね。大人になったらやさしい人になれるようにがんばります。天国から見まもっていてくださいね。じいじ、ばあばありがとう。

(指導 澤井ゆうこ)